

【緑地を楽しむ本】

『うまれたよ!カナヘビ』

関 慎太郎 写真 小杉 みのり 構成・文 岩崎書店



先月、「楽しみ」などと書いたら、記録的な雪が降ってしまいました。緑地ではソリ遊び等できたのでしょうか。凍った雪も、陽のあたる所では、少しずつ溶けてゆくを見ると、そのぶん春が近づいてくるのを感じます。

そろそろ庭で洗濯物を干していると、目の端にチョロチョロっと草むらに逃げ込むシッポを見ることができる頃でしょうか。我が家で見かけるのは、メタリックな色をしているものが多いようなので、トカゲのようですが。実はいままで、あの形をしているものは、全部「トカゲ、トカゲ」と呼んでいました。仲間だけど、トカゲとカナヘビは違うんですね。

この本のシリーズは読み聞かせ向きに作られているせいか、写真が大きいのが特色です。この『カナヘビ』も恐竜をアップで見ているような気分になります。いつもはなかなかじっくり見ることができない彼らの表情(?)や体をじっくり見ることができて、苦手な人には申し訳ありませんが、可愛いとさえ感じてしまいます。カナヘビの「カナ」もかわいいという意味なんですから、しょうがないですよ。

本の後ろに実物大の写真や、うんち、きずついた皮がめくれる様子等も掲載されていて、カナヘビの懸命に生きる小さな姿に、あらためて自然の不思議さや、楽しさを気づかせてくれる本です。緑地で彼らに出会えるのが楽しみです。(また、記録的大発生したらどうしよう・・)

(遠藤)